枕草子

一

7-16
太政官文庫
和書門
特別
三
二三四一 類
號
第二十七書函
七 冊
架

第百四十三函

共七

内閣文庫

番號	和	32341
冊數	7 (	1)
函號	特 27	16

国立公文書館
National Archives of Japan

一橋図書

国立公文書館
National Archives of Japan

宮内省圖書寮

まがあまりのやうくさとなりぬるまゝに山ぞとはるゝ
あるはてはむらはちのたちまちにたるゝ雲はほそくたちのぼ
るゝ雲さよ月はちるもさらなりやこゝもなほ
かゝるほどにむちゞひさうぞあるなどのゐるまくはたゞ秋
ゆゑゞれ夕日さるやうにはりはじめぬとちうちう
ほのかにその秋とこゝろ〳〵行とそこゝろ所ゐなと。
さびゆくさへなれなりぬまのくうまるどのほうゝ
あのぞとちひさくゝんゆるいとはたゞ四へなとそく風乃とき。
むしの乃なるゐぐいとあるまなりぞそゝ雪はゐるゝ
ゆゑぞいつぐこのまとなくすぞ雪のいかゝまろくぞさ
ぞぐもとはちひさ火なるとくいとそきはなるしくぞろんと

てはらはらとはのくしぬるを
ゆるひのてゆもあはぬをそなれ
いづちうりるあるをとはしごろも正月三月四月
五月六月八月十月十二月ぞくはうはあはぬひと
とせなどくれのこ。四月一日はまつてそこの事きこう
ときとめはしをとこみちあるてせをおほと
ある人をすぐかちんことにつくはひ。まんはとあり
をといと弁などしあるはひとてはあり。七日雪ま
のわりめつこおはるこりもされものはち
こあるこはりりくはたる馬(あどむま)ひんとくまん人
をこはきこをにしをてこんこりゆるこ中(なかの)はし

門乃(かど)とこきこびを出るうりどもこどもこをこ
まはびあひくはこりをはこはちこいせのはなき
などしてはこをとおこりだ楽乃(らく)ちんなとこ(え)
上べ(じょう)なまくたちもこてこはこりれることもはなこて
れどはこりてはこをはこはこはこはこ
こんなどのはゆこりこはこはこはこ(にょうえん)
ちもづひきをおこりてはこりはこ人(こうこ)
をなこもこんちはこはこはこはこはこ
いとせこのはこはこはこはこはこ
ころきりのこゆこはこはこはこはこ
ゆここりこはこれはこはこはこはこ

ゆーるみあるのはたちてるとだそろーしくおかゆ
きはぷいくまくよくとんぷくまぶぱ日入こいて
りしてぷーまはたを家ぷ車乃をとぷぽよりハこと
まをてくハおくーぷ十五日をのちうゆのせくまるぷ月
ましきのかくしくく家はこうち女房などのうくつを
うたまーぷがよういーくぽよう洗とぷろろづ
ひーくある家ーまとあーー米にぷくよまくくげるにら
あらんぷちはくきるはいんぎ米うなまをぷうちわ
ぷひくるもいぷとくくーー洗くーと思ひくゆを
ちとうまをりぷをとりあくくーうかのむこ武
まをのぷちくまるはを洗てるくとるくかうつ米て

ひまをと思ひくゆる女房のはくぎをのおくのくりをぷ
まりをぷ米くりのくを人をぷうを洗くくわくをはなるゆ
とはのくをくまをぷ米こんくーらむぷうみくぷおかゆを
みくのをくくぷくなるものとりはくんをといはくりぷん
をくうちてにぐくまはゆるかきりをくゆおとこ考をか
をくくをずはのいきやうづちくくをくるぷをとくりおどろ
くをかぷをくーあくみてゆくしゆくはとおくーぷくくに
うちておとこ洗をくうりゆくるゆくのはんん
なはくをだくぷちはる人をのくひぷぐくーくを
おくーゆをくをんをくをとぷげをくをれん
くまをくうーこゆをおくーぷよをあをかどれを洗をる

きいとおくしぬきぬうちまきてうるうしぬ
こめくあるまくをいとおくのやうぬちようげなく
きいとくぬちのしあなわぬくからきぬなるを
ぬくりやうくあんなひいひぬをうれはりもうち
まくぬものの身のうしなとぬ絡をやま
てとまやまるぬぬくなんくまぬ絡をしまくをと。
いうくうのきくんよまてしおくぬりまく
るどいひくもんくぬをうぬるくぬ
とおくれなまぬ三月三日うくくぬどのにてうくるぬ
とれ花のぬくけるものはしむる絡をどいわおくき
しそけくなれぬまくをとまくぬをうくきとうをあく

しそおくしあまきびろくうをあをにくぬ花をもり
きるぬをうくてうんをあをぬおりしぬくけるきたる絡を
なくおくりくあうきなをれりあうぬくしるそ
おくしけまぬくれる絡をうくれるものくるる
まくをにをあまぬ絡せくの君をあをあまぬくこちる
をるあくぬのをとうちひくるおくしぬとをもしれひる
いうきぬとうりくうくてとびあるくおくぬ祭りのこ
絡をいくうくおくぬ君をれこの絡をまぬいをきうぬ
きなうてぬのやううあ絡くをるうりかをくくをと君をも
をくくあぬくれをしまくぬをとなくおくぬ絡をうれ
しまくをのをくをとくをくをくをくをくをくをくをと。

ものびくるやとおもふものどもなれそうへてとおかゆゑあるまへ。
たどく一ゆゑはゆくはゆくさんゆきてうまうせんゆゑ
ちうくなるまくおゆくちだんなのひちどのとおもふ
まれつぼそびつりかうこうへくれどうこうゆゑの
まはくへくゆくもちづひすてなるくしそおりくれ。
ゆゑおこむくこゆくさそあなとぼよりのもおくうえ
ゆゑくくへのくしらそくりあくひぼくゆくひくゆう
くみおうゆくゆくへんくまくうまくるくるあるうゆゆい
くんなくものをおけさゆゆくくおけくれくもくゆ。
ゆくしくその見にくくなくんとゆくそのはくしまなくも
おくしゆやくしうおどくまくなるまくくものくとおゆさう

おゆくそはまくはくへくくゆくやうはといふ法師などの
やうくゆゆくさゆくよりゆうゆまくゆくゆくれくんゆほどくく
はゆくくおくやうくゆゆなくなどおくくくくばくく
ゆくへあるくもおくし

おとくくるるもの

法師のことばをくくゆゆくくくく

つくるものやうそうぢのでうむことあるんぞう秘ごもや
もうこびいぶまして言ん一やなものこそぺとく
ぬ一者なわぺぐけるまれぺくあるぶちくあるる
かとうぺおそ秘一者めとんぺるーあるきこく出
ぬまはぺくかこうりうぺるぺくるはあてやを
者となーぺくこるぺくしぺ人うるまくぺのあて
うするもとるぬ一者まはぺうじてうち秘つまこ。
秘つうなこのこーてこぺむるとうとこし秘せく
いうう思うんぺぺまはむーのことれうぺやう
まやを者なわ
大遊ちるるぬこぺあう宮はれぺくこ秘ぺりぺんに

のこそぺうあううなーてぺまこるぬ御こうーこ入
秘秘ぺ乃門より女房の車とこぺん屋れの秘ぺり
なんやとおりひくぺからはこぺはこと秘ぺ人をぺくも
はくぺうをぺて行るる屋のやぺ思ひなれぺうる
あうりぺひ屋ぺあ秘車などぺんぺちぺこけまこぺこはうて
えいう秘でぺまひのえんだぺーきくおるこうぺとた
るくこるこそこーまれとぺいくこせん殿上人地下なるも
陣うたちこひんぺも秘ぺーぺ前うまぺうて宿
はくやうあぺまはぺにくこと人まこんるすーこやを
こぺのはぺーもぺうちとけ遊るとやうう秘遊ぺはきを
こまこみるめなまこくぺ行まこぺこここ行るんにう

まだ、ぼうくんをはくんだりなる家り。
くるぶいくぬ門屋をなるんぷんくバヒくくんをとふと
わどにしもぷまきまいくせんをくぷをわれどさ
へいくくんとわくくしてだくしまきなどてのその門
せくくはくをくをみはひくる粉とくくだをくひくあ
のわとぶおはどうあんをてはるをくとくいくのばま
と門乃くはくをだくはくをくるくをきこゆるをとく
だぷをだくはくはしとおどくちをくぷをれをうていくの
くとくしをくくるなまぬるをのをんじちどはは
どはぷをくはくはくをまるぶをくをとはくぶをくりだまく
みみくくまくはくりまれだがくぶみはわをまくれ

はをくをの沖みくをくくくをあをえんたくを
をたをまはぷくれだくくはをくはをくるくをとくだぷはをの
ぬくはをまくをくをはくをとはくんぷくくはをくをを
業事をも沖をるぷくくりたくをんをりなんをくくいぬ。
なをのくをなをまをくぷくくくくくはるをとぷくを沖
沖をのくをず車乃くくを沖をくをとぷひはるをくを
だをぬおなくはをのくくをくをくをくをくをくを。
よ沖はのくをくくくをくをくをくをくを。
ぬくをぷくのくをくくくをくをくをくをくを沖をくをの
けがをくをなくくをくをくをくをくをくをくを。
をくをあんをくをくをくをくをくをくをくをくをくを

かきまぜてゐるのぞきからくりをみてゐるとなりの
ぞいてゐるとなりのおとこがみまぜのうしろから
ぬくとぼうぐらひとりもなくだちぼうし
をみすぼらしあまくいなりをぬいでうかい。
そこにやうのとをくしゃわさぬめうせぬりの
家ありあり海のきのそばにひまをとる海を
はなあるとおもつていとおかしかりなる人をも
ちつくづくまんぞくぬりのなめる紙とかくだ。
しらとりのあまくうんぬりまていみじうとなき
きたうぶそこにとつぬぶやくもあれあるーとぢめ
ゆをそのひとはるなかまかくだ門のことばしてやまき。

はうしまあくとやきいなぬ紙きまーゆはうんそ
こうまこうんきいうまくといくだぶとえんぐ
ゆはうしうぶえんおもしまきはぶれ
人をあそーたのとくぶひとくぶそいあるぶのちまわう
ゆいうーあまあぬとなくぶめぐまいいまもしー
せうおこれきまりたこのなるとそだまうふもんおく。
ぎふおうーあまはぶとえんくゆ前りまのまくあい
きまこはぶうあこうゆくぶうあるぶのおとう
めくくぶまうりきりいうれめりぶのえまあまこれし
あまくいひうんくそぶいとおうーはまおくまうせ行ふ
御宮の御うえおまうえぶ紙ぶくぶぶくぶくぶの

よしおかせうまるくうりぱくこれなのあれうををひ
まぢるふこうりはうまつはぐちをとをぢをこうりねとこ
こうをなりわをめこやのゆ前れものまぢこひの屋う
ゆくまぢいくぢうりはくうんぢうあひれうしまぢう
ぢひたりのはこのにくこ拾ぢくさねくうあとやくこはて
こしてまうんををひぢるぢくうりを屋をまくくうら
めといつをなる伝きひのくの人りやうりかくれいひうくひを
ゆるきんくうちるりのちをいとをこ書ゆとぢいこ拾ゆ
を拾くこぢくこ家んなくるあるくこ大遊りのゆえんと
あり二人りはぐ屋を業こくめくして文ちをくうこと侍
ひくぢくうゆまくんとなくもいとおうせくまくをいとおの。

ゆまくく業の書とぢくいくんはこぢかを出くまくこぢ一歩の
門りくこと伝中納言くこ拾りはのはるをくこぢくんじくうん
ぢゆはくまくぢくをさ屋ぢくうんおりうゆあひうんくして
くくけこ屋くうんとなくんぢはくまくうをくこをこと屋。
一歩のくこやいくんこぢとれめの三門まおぢうまこぢくイ
門はくりのくりはくうんとぢていゆまはぢくくまり
をくくくこぢくはくゆぢくこまくをくれぢはくるのを
くなんとまりびぢいくくこくこくをくこ一ぢよりを出
屋伝事ゆくをあくぬををのぢくくこ門くくくこぢくり
をぢくりはくんまくとぢくくくくくこのをれの
をくくくこかくくくとおりゆ入りはゆくくるを伝

とやかりのとくばかりしするなりんとぞさまをと
沖きしなもいとおかしうへりけつつぬちゆかぐ
つるまゆりて今ぬおとくらくいとあしけきこそ
行ふうしに出て海をぞ見たるものむすめ入今ぬおれまさ
るや入給へとよぶ声ぞ日はさしあつるそるる
ゆつるそぬるるぬおとそなのいつる今ぬあ
ゆくるといつる海ことかとくぞまゆらしてうるた
きはおびえまとひくみものうちて入ぬぞうまと
のまうしぐるおとうしさんぞ沖らんしていんしう
おとゆるを行ぞゆるこそ沖みとゆるうへるゆるひく
ものこどもめをは義人そうたのまうそくうしゆおとゆ

まゆうちてうじてゆしーさにつうゆゆぞいまして行う
海きはおのまるまくうるうちくむすう今ぬとさい
なるそぞとうへてんぞとうしろへゆーとおをくは
きこぞーこ海るくく沖前まを出ぞゆぬうりいでく
たなぐちるぞーてをひ海のうーいおちまいうしく
ゆるぞのをきなはるるものあとぞ三月言うう歌舞柳のづ
前ををうゆぞとれ前ぞーにうゆぞくうちよ
さをるぞーておるうやゆるひーおりぞ海めうんさ
思ひうゆきんやとゆくまうるおるうぞれうす
ひうひうるゆうぞーるをこそあまるるぞ云て
三を日うるうぬひるうるぞ大乃いうーるなくこもの

とれば、だるまの大れうくひきーるぞこれのたうんぶと
きくりぞらばびのいぬとも、けーまさうれどもうしひて
ゆこのみりやうとなるものぞーまもなくぞたを義人二人
をくうちはひーぬるーだとなりぐさせ行ひ宮るうかく
あとをあうをるぞくてうじ行ふとこぞうの事やおされ
まろうりぞあたのさねつこうんうんといくだせひーて
ゑるほどーからうじてなれ屋こあぞつかうりひき
をくつやいくぞなんまぐうれどまほ夕はくぞいみど黄
ぞまこのさまーまなる天乃ぞびーまなるぐぞうる
ぞのあるまけぞおちまま行ふかくふいぬやまこれちろを
人ゑるれといふりぞおまぬなまぬとらぐこぞうと中入

ぞ拾まぐこといひおまうとうひぞくーせはぞ出ぐた
をりうるぞくぐをくぞ先せはをありをのぞまこれまぬ
うしぞんせさ粉行ふりぞ仰くぞ行きをとこまはゆー
ぞふーて行るめ狂ぞおれるめ行ふよぞだら行ぐびて
まつぐるりのをよぐとぞうをてちぞおーぬなぞり。
をまこうちこ行ーてぞくぞ行りぬとーてやつまこ二人
てうくんよをぞのちんやとやせぶうぐうる粉行ぐら
うなまくぞのくうせまをとぞまぶのらぬりのう
いひるーて屋こぬるぞとぞくぞ御ぞづりをーに寄。
御てうけはいまくぞうぐんのねこくぞぶんぞまは。
をうりいぬうちーられのりこーぞ井ぬるとぞのれ

業がおのおのなるまねをぞいたしけり。さるほどに、
あれ、くまぞの乃身につのぶくめひそなるわぬらんぞのうち
わぶ、ゑのちちーきをんとうちつかとうぞ此ねるら
いなぬぞるひるれくきてだなるこるとめおとしまあとる。
いとあさまーざこまおそれのるこそなるまを秋。
ようぞいこれーのびくあるをりとなくまふくはくは
業事かぐるれ、御うくんぬをうちをれてぞるて
おそ邪まねといるーぞまりていんーなるなく。
御前をもうちわくもせるぞへくありなるつまれくく
右近内侍めーてかくだなと伝らぬまぞるひれ下
るぞへくめもゆーめーくぞうくせおるーまで

あるぬーうだるくくもうくぞるぞあるめるうこまるとと
るくくもせるぞへくの女房たちなどと業うーまりて
なるつまるてぞよるまと今秋たちくくなるぞるどて
きくめるとめくてるせくる秋やといくだぞ井うーいひ
あくはーるるまるぞるくるくるうぞだるの業くく
大くんこーるるくるよりぞぬことまやるくんぞまくる
くんといひまこぞなゆしぞ秋りのなーといくるき
ぞまくくとはのるーぞんるくるだるのもるくんぞるくくと
えるくくるるるるくくといるなるくるのちるーこまり
かくしゆるるまくくぞくのやるくーなるまるるるぞるあく
きくるるくぞねるひるれ出くるまーほとくくぞるる

きてぞおくーーーなくなるーーーのべくみをいたれ
てだすれるとまとすき
四月一日二月二日まとうとうとうとうなるぞ月五日まとぞも
ゆくくくくーーーまるぞ七月七日まもまもまくぞくくれ
きるまるまるぞ月いとなくくぞーーーのれくくくくくくくるぞ月
の日ぞおうけきかくよわぞすくーーーぬまくくぞ菊花寿を
まちまくくまおりひまるぞやくなとといくくくぬまぞ
のうとまりてくやまきくくぞとぬくくくもやくくまくれと
おくくりまくくぞくくとれぬぬうおちぬまくくみくくくる
とおくーーーぞれこひまくうするくくおくーーーくまぞしろ
とぬまくくぞやくくとまとまとまとまとまくくまとまとまとまと

ちをぐらやま　三の峯山　このくれ山　わしの峯山
いるもち山　うぶやま　ひとせ屋ま　ふけつる山
ろのなるもんとおくしまいのちるやまのちせ
やこ　うさやもり山　ゑしらの山　とせ屋ま　ぷぐろ
ゆきうすもと　帝ろくまぶ　ひろんいわらおくし
ぶのみち山　あさるくやまこそでんるものおの峯
いさらやま　おくひまこ山　ぷんじの峯わりせは
ひちもと　四ひ出くしぶ　多賀山　こ稲ノ山　ゆや
おくし　吉野山　まちろ移山　こせちやこ　ちせ
山　くろ井山　峯ひの本屋ま　あくし山　さろ
ちれやま　ちをはとくろ山　とし日やま　なさまの山

まだあ山　かくるやま　いりせ山
峯八
はるもの峯　あくろ移　いやをのこ
ちくろ
たのつろ　みのくろ　あくろ　ぬくろ　ぬろはろ
こ移ちろ　ひちづろ原　なしつこ　うるひろの原
あ屋移ろ　ちせちろ
いちも
こ川の峯　はいちもやま　ちとぶ　あまろ　宮中ろ　長
谷寺にやの屋ろ人ろぶれ　おくしすぬころ　ちまろれ
ぶ　就吉移ぬ　えんあるもやと　ぷとなり　おろ移方

三条の市　あきかた市
ぬちき
しまつらぬのなる松このゆ浦にてさまざまにつき
宮ゐんとゐかをかし　ちるまきのふちたまりいちるく
人のきしへしなるん　あしの浦乃渕しそまるを
しまもと義人などのかりしはべりて　いまはもち
かくれのあちこち　みぐまもれふち　ゐ渕
海ちき
水さきこちたうこ　うぶもち乃海　伊勢のこみ
わしりは
きりぶの社後り　こたちのまるま　ちり浜社後り

こたち　ぬちき
うぐひすのみさごれ　しぶさこ社乃くき　あをの
乃ちき
いろ
えんのこ
えんのこ乃御門　二条一条とよし　松あ屋社こや　せ井
院　ちぐ乃院　ちぐ乃院　朱雀院　ちうのゐん
小野宮　ちうぐび　あぐる社井と　ちうこ条　小ゐ条
こ二てう
清涼殿乃ちしかくれ　ちのぽ社　ちるちさう
ちぐぽ　ちうのうぐぽ　ちるものこと　ぬぐ社ぐ
ゐなる　ぬれぐあ　なぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬ

ゆるされたまはばとりあへにんをゆる
みくこなどして日くらしかぐらんのとり。
あ沖のうめの乃ぞなるまくぐらのいんとくだ
りしろさえぐのぞえ大だうるるぱいとあるくさー
たまはばうあんれりとまくぐらのめくたひる
はうぐ大納言殿ぐくろのもーなるう
殿のちるりぐのむーくるれのけーぬさ殿ぐ沖ぞ
どもぐくよきなやろるぱいぐーて系
殿くりぐるれこれくさうれたーぬせぱぐらのまへ
なるぐをれくーー米にのるひくぐめちぐ拾ーし
行のみものうちるぬ殿（にょうぼう）さくのくうさるくもぐりろ

ふぬぐたまはくぬちる殿さちなぐいるくうこの
とーるくぐなまくこうーくとみをよりぐーー出るる
うぐ四ちれまーのくうるるーたとのまつるあーちをは
ぬるくひるぐくとーくくといるぐゆうくくとれぐれ
は四れぐーー米いとれるーーきうーぐその沖ちんをくる。
くくうとくるりてぬとのれうけまるなれ戸よりわる
ら女殿ぐまぐとるう大納言ぐ殿まひる殿れくくおり
はーる殿のりくにぐりのるくう宮れ沖米の所米ーを
ヒ殿りてぐるぬーれりくるくぐーるるーぐちるみ
くるれくくとなるくぐるるぐーるるぬ人と四ふ
くくなるぬんちを殿りー。四日ヒかりゆ米くくぐくに

ゐるぞうもうれしのとつぬゐることゝ成ゆくかゝ
りしくの居くるぞとおくれ
せとなら海ほし居るる御あるさまるやうぜん
はうう海つる人ぞれどもとるやめをぼどもなくわ
うせ行ひぬ御をものすらはきと作らゆくゝ
めをおくらにのこにくぞくあり
まはかどを御の先とをちほ
きくさてくんくぞまこ
しくはうあとおりせくは
いうとせばどくかもてさいう物行へだのこをまてる
くぞうぬくをみとうくゝ御をものをはろ

きくぞをくきくを思ひまくをでなみをかもものを
おりてんををとせをさ物ふれどをくをせ
みのぞをくおりてさへあうんてう思ひんてくおくや
長の雪花おくゝ物をおぞさいのくも上居ぞこう
ゐくまをにとなるう

とゝ物をくらをひををぬーうゝまを

おををーんまをはをの思ひをとなー

をうをことゝぞををーみをうとぞをのをーゝをを御らん
おくくぞをくこの四ぞくをとうぞ越ーかるをるぞとおりせ
ゐるるは井でうぞんゆうのんの時御前をくぞ
ふ雪の二つうけと殿上べうおりせくまをるをぞみーう

かつまのにしくぞすまひゝ人へ
ゝ
ゝ
ゝ

ちかごろ人をみる学(がく)をぬぐさうの抜(ばつ)の御時
せんようでんの女御(にようご)とゆうて学をぬぐ小一条のたいこう
御むすめあり。ぬぐ海一ゆきのだいこうの子のくさうし
又記(きく)ぬきこにあり。ちかごろ時ぬぐのとゝへゆうこを
ぬぐひくるはづまを御ぬぐなりひのくへぬぐざまをきのんちを
ぬぐとゝぬぐ。ぬぐ人をひのぬぐ海さうんとぬぐ形ぬぐて古今乃
奇二十巻(まき)をみをうへさを行うんと御ぬぐとしまのぬぐをを
ぬぐへとなんぬぐくさ物ぬぐひくると学こ一ぬぐをを物
たまのひくく御ぬぐいたなるとぬぐ日古今(こきん)とかくしてぬぐく
ぬぐ海をぬぐひくく御ぬぐ木(きちやう)とぬぐくさを行ぬぐてまに。
女御(にようご)おやゝと思ぬぐ。ぬぐて御ぬぐさうしをひるぬぐを

ぬぐひくくそのとゝまを月河ぬぐぬぐ人乃ようくてる三
をぬぐあとをひぬぐくさを行ぬぐうかうなるとゝぬぐを物
たまのあとぬぐ行ぬぐくのひの元(ぬく)くとゝぬぐれる那
ぬぐくさ事とぬぐをるくぬぐ行ぬぐ
ぬぐくまあ色一ぬぐかぬぐぬぐぬぐぬぐ人二三人ぬぐの
ぬぐ物一物ぬぐくぬぐいくさをくぬぐぬぐを行ぬぐんとてぬぐ
さを行ぬぐひをんぬぐぬぐくぬぐうぬぐめて学くぬぐうををん。
御ぬぐおうぬぐうぬぐひをんぬぐ人さくそぬぐうやまをけを
をめてゆさを行ぬぐひをまぬぐ行ぬぐう色ぬぐくぬぐを
くなるをぬぐなるぬぐ物ぬぐぬぐ色ぬぐくぬぐ行ぬぐたぬぐくのなるり
ぬぐのぬぐそなぬぐをくしぬぐめぬぐくぬぐの事ぬぐ行

て紙やまんと初めて巻きくだりてる千巻(まき)とかぬ
ちくりぬようなるとそうりて帥さうしにゆくさんし
てみとのちとりあるとぞめてくーうーぷとひば
うあるとくれちよさせ給へはゆうなる世せるのちうちて
御まんいとわうる御しそて下の十巻(まき)とはしたと
なるくでことは御でん行ひあそはるとくぷうひはちく
うんとれかとなるあらはつるとくぷ和まくぷちんまま
せ給ひてるぷちまでは井てまちやまくぷ和たるつぼ
うりはてうぷへまくてせ給ふくのちぷ成ことれんを
人々(より)驚りやをまとれ給ぷんぷうあがさうぷく
帥どきやうるぷなまくぷせ給ふ和たくぷれこう

ひとくなん初むひくてせ給ひ宣るとはるくく
なられるることれうるどかこの生せ給ぷへ帥
ってがくはせ行ひくぐされりくぷまま行ひそん
成ることまれだるとえようこそてとおりせうれむ
そうせことのものみるれうくそなるけきぷ一紙かや
うなるまとやそやゆるるどぷ帝てはつくぬそとぐ
よれ女房(にょうぼう)うるるゆるはちきたるれとまりてくら
いひ出るくくーゆるはとそはとうと思ふるくこて
ぬゆきだはつる紀なくぷぬあ御のに之那さひ見などん
てのるくらん人そぷぬせるくなれはうりくぷ思ひ御う
きてくぷなる成さりの御ぐうんん人乃むをあなとはぷ

まづ、ちかゝ世ぜけ中のあるとかたもぶんぶなるこゝろあり
う内侍ちかどにくゝとぞたらーあらぬなりやとこゝてあるわ
き宮ばらへさまゝ人さまゝぶあるもくゝーうわ泊まる事ゝ
思ひのつゝまゝ雪こゝてゝとにくゝあまき雪ゝそのもの
さまゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
つきの上達部殿上人四位あ位六ゐ女房ばくゝゝと
ゝとずんゐ人さまゝれるこゝあゝ先ず女房ばゝ
さゝとぶちさゝとくゝのゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
やゝゐひゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝれまゝゝ内侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝぶゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まして せちふんさけさきに人乃国よりもとゝ
ほ文乃拾なるの家れをもとぼりてそだりてめぐとぼま
と拾まこゆり業事ともうれあつめよになくまをと
さけだこゆ人乃りとうぼおく業のらけりうの
あてくありたる文れをるもんぺうきあるんう
とあやしまきをそれとまつかとりおあるいらの
ひまを八てるとぬくぬうもいきたるをりりちる
ちかてたあてうくよりうるうるすこう人業のくさうとお
をもうのなるまをしをおいことくおるんまをなと
ひくくとそうくうあるぬとひ記ぬかるうあしぬ
あしんずくぬるの人乃りとうり車をやるくまつて

入くるまをとひまぬぬられうあるとと人くおくえくるうり車
やどりうりへくぬなるえほるとうちれ拾をぬのなる
拾ととくんをつるれうはまをみずをるれうれるぬるて
うしのうぬりひまを出くいあるぬまるあゆをるくとう
きるむこれちまをなりぬるぬとひるまをぬ人
のぬやぬるくんまを拾ぬるやまくぬりうと四ちを
ぬうるりぬちこれのとれぬうくなるぬまくぬあるる
りとむまをぬうくなるそだりなるあてやくをを
ひありうくあるうりぬちるひをえまつる海ととてぬて
とうたるぬうまをうくみをあくまをぬるくを
ちるまをなり。安るとむうつるれとをぬているるんぬつ

人ありてこゝにて。ぜんこうぬきくぐりのびゐるうり
門をとりあたむてゆきたいちはじまりて。人出してこゝを
ぬけてゆくなるのかりうちにはしりくぐる
もぬけるゆくなるまゝにとりあつまりぎんしやきん
ものくまぐてうずとくいんうちうりうりやこゝや
ちぐなどりうれてぜうこぐちうりまりまりよこの
たまてがいさこのちうちげとなくさやうちとりうひおつ
ぬきくれんじのうるそ。雪もあとあやしと思ふよ
時ちうるまうくよこちうしてさらにつぐたち彼とそ
ちぐさうるかくしてなまぐぎんなしやとうちつぐ
ちうひよりかくちうちそ。ぜさぐうなのまてあるを

をぬけちのまうちしてぬしあるちりくに一ちうこうの
人乃家ぜうしうかうずときてだやうなのほ
ものうもちぜんくなりはるぶふの車うちもむりのち
るとみなはつまるまもくぐ出入車乃なかえとひとち
ぬくぐものまつぐちるとにもぜんとくとまうつう
さはうぜんくのぐけのくぜんをなくるうぐちりふ
あうつきまくうどもくもをせるとおあ屋なおて
ぬくまてくやぐぬちをふくくしてぐんだちめうと
みなの出ちぐのまくにはうちりうぐちまぜゆう
はるぐずまれれどいとものうぎうりあゆくるちを。
大ぐりのちぐぐひぐまはえとうるとぐ外よりきくるの

なとゝ我ら爲ゝ思ひのゝるゝ世なれどゝ思ひ入るゝまゝ
ちゝみ入せんしにしゝたゝかゝるゝ思ひ入るゝまゝことに
あのゝ入けるゝのゝゝこゝろ
はとめてゝなるゝくゝひゝとゝくゝたゝるゝのゝもゝやう
爲ゝひとゝりゝふゝるゝはゝくゝもゝ爲ゝ思ひ入るゝまゝ
えゝゆゝゝはゝるゝるゝゝ年のゝくゝちゝゝ成れ
こゝろゝゝなゝゝしゝてゝゝゝ

ぬとて、ぬぎすてたるくはつまどもおまへにようせどもすべき
こなすともさらにあるまじ。あるをの人のおやさられたる孫
なるぞ。ふこうなるものどもとのうちにまとおやのひるま
にてゐるまぶのまとろうすくはまーるまでなつかし
孫たちまくあるゆまぶはーくさへくーそ笑まき
とそまうのはこうり孔雀毎。一日づつのまやうまんの事
ぶんとやいつぶらむ

たゆまぬくものの

ぢうしの日たちたる人　とゆふのいそき　寺うひ
さーをこうのまとる

人まれはしらるおも

あまるまんの孔とんーまてまて人　あへくーまぬ。
はゐぢ孔ちうまを

にくまとの

いそくまーなるおまとうぶまとするまちうとおなぐう
はーき人なーんぶちよなーといひてもをひ多うはぐれ
ととぶまとぶうちうはぐづーまの人ぶとくーぶぐう
ようこれへくまとれるぶすこれ中うにあまりこ
まーくときーこうはぶぶうーうにぶらう人の有う
まんまりとむるうぶまひある不まをなそばのはあ
はうのあまくかとうぶはちぶゆうひさーまれ。
ちうーじてまちはまくよはこびなーうがぢ物さ

[illegible]
まにすると、[illegible]
なんてゝいとれさ人乃ぽ[illegible]
つひゆる。火たもの[illegible]
とゝのゞなくゝてあ[illegible]
ゞ人なゝとれさんとてゝ[illegible]
火たもの乃ゝ[illegible]
まゝにぽゝ[illegible]
りとゝゝ者ゝくゝゆんゝ[illegible]
ちゝとゝゝひとゝてゝぬゝ[illegible]
ぎゝゆ乃ゝまゝへゝゝ[illegible]

事をひゆゝるゝゝりゝ者ゝゝやとゝゝりゝゝとすゝゝゝ[illegible]
ゝゝをゝゝ武部大まゝぽゝゝゆゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月ごろ学問するゆえをべつに世をうらむる
事のやうにぞと人よりとうてのぞくべしとにも。
おのうんと思ひとうなるくちこがらものなつかしく
とひとりひなるくるぞのびくるる人べつにつくか
ゆる矢をうちもちろしはぐしさなすうなれば
ちなる者うがらしぬせてる人乃びきをさるみを
うふーのひくるる者うなるこがしてぱをに
人うんとーかぞひとひ出るはうよはきはん
まくぞうよ海といん移くめるぞんーうみうぞいを
なとうおたるぞぞちうの者くはらくとなるー
うあもいとあくーぞかうの正はまーてらいーを

ぞちうるいとをるーぞをやをくひきよはるく。
出入をゆをはうくうなるずよ屋うをとあるをは
くるもいとにくーぞをーりくぞゆやうみくなる
をなりやをはるおーうあくきべくしるどた
はあうーうかとあくこそをるけきれぞーを思ひ
しぬーをるうりのうそぞをよあれうくぞうのりよ
とぞあうるをせをべぞれぞうあるーそいとにるど
おきぞーめく車よのをくなをくをものぞんもき
あるやあうんとをふうーあれうをんそれ車
のぬーさにくーおるくうなををれうーぱーもく
あひとりはいをくなのぞをくべをーぞうはも

おとれをいとたくしぬ。ぬしあるものをとるとすれば我
とりぬものをするぞぬと出くいひくしなどいふと
ゆくしぬ。ぬぶこれくしぬなるまくいとたくしぬうう
ぬくりぬるまくとぬくとぬぬくぬぬ
しぬりのちくくすりなくしくばひるくてて
ぬくくでうくやうちくくしぬるゆくしぬくてくぬや
ぬくひくくゆくくぬくなるくなんとぬりつ人の考
ぬくりぬくくぬをしぬるとぬのくりなるくれ
くくりぬくくくなくくく

うちはらひたるのちうしくるまとこれはとこれ車
とゞめておるひーそこせてるぽーしなしぽさし
てぐうにーこそるもぬきの者はぽとりこん彩人なる
そこはみくとぽはうちてそいとおりーまり人なるとなる最
毎はあーぽの吹ゆるぐもとおぐろうる
すぎにけりこひーきあ
えいなあそびりでうどぽてきあ升ぽびおめなとのぽそ
のちーあぽはきてくさしの中うあるまけるとこんあ
るなんれなまーぽ人りみこ雨れとぬりてぽまくな
はるぽーおるぽきてなるぽのうえうり月の
ある夜

あるはゆくとの
うくうるる女ふこと侍ぽおーうはくきくおうる。
あんのうくうりのまきりぽまくきたこともいとあるる
しうくあるもれ車をうせてるぽはくきの
おなるみちのくぐうりぽとはそうかくなくるあぬ
ぽーてぬこかこのあるぽてうたみりてうおりくうちう
ぽぐうりのいとの祈りなくせるうーあるぽうくこ
をんやうじきくぐうりおくぽそのちくーたる。
よくる祈おまて乃むるぽはくなるあるうりぽとなるり
ひつまーるくあくずぽうとくとならぬまくとちん
きて世の中れあくてわぽくろある事れおりきる

いくきをぬやーはとぬまたにうかまてりかてり
おかの屋ぬぬくくーおかはのなくくぬぬくよれをと
ようくるまくはぬとまくはゆくんくをて社寺をとにまふ
でおやはまくるくしぬくはの屋ーくるまくぬ稚
などやうののはくぬおかどくるまとでまりりるぬ学
くくやくくるぬぬくくはのどやくくりくるぬくくるの
くるまくぬくくーをくんゆぬ。はくまくーくをて、
ぬくくの門くくくくくるくるくぬくくくく

はとはゆきとうへうゆきとうそぢとくさのたうとさと
おうゆきぴうめーはまけぶとわとまくうぢとぐぢな
はゆきはうやうらんとおぐゆこのまとこはとむへ。
すこーまなどのよ後ーまくそぢやうのつこ
ゆきうこれこうそれ出ぎめぢはつこいとおうゆー。
ゆだうとれゆだうきんおけうりとくぜりきやうゆ
といのかこ後りぢうそういかわる人こそ行ぢうの
んちうまそぢーとまくそ足ゆまこ義人おるうる人ぢ
そ清水ゆるどいこるものもせぢそのとーばうぐちろ
月にそゆーてぢゆとうんくさり言うぢまはぢーむ
ぢうこちゆる義人ゆ信とくくうまこゆーとれぢそかう

ぢくとぢうれれおけきまくみくぢ後ひとけきいとと
あるちうちぶうまこゆのめまはぢやうのこ後りうこれ
ゆくれぢくあひこてこひけうそ先つまこぢはゆまみぐま
はーまくなるまくぢ裏こるのいとけつきにとぢこ先う
いとあぢ後くけうだうとこゆ後ひとけなひぢはゆまのけーぬきれと
ぬくちーしてゆいめうりぢぢーうおいくはまゆるそ。
きふさけゆ後ゆこの日れまこぢはぢくれうまうこ
人くんとやいそこまくぢれるひーまと物後
ちくぢ車くゆ門ゆれこくぢんいまこぢとはこきうる
きゆなるぢひくうまこゆんぢうの言ゆ人ちどのぢつく
あいくゆゆかぢはぢくーくるまそぢくゆまりつこゆ

うちづゝみ、ゆき事ちどうくわ出てくぶ、
ひろう記ゐあるくぶ、ぶろりなのてくるとひさうぞくし
きるぶそぐいまるとてあぶ氏ぶるとのみしぶるくゐ
たうちゐんやゐ兵なぐして車のようあるかあるとゐ。
なみのしくるくるくゐ乃せしぶうう強くやうにそぶひるを
長べみるくるかとりぶ此強のようも安へどるみくハつを
よきうくまなるまてはぶてなまくくめばしうぶえて
ぬうしくるくまくめぶくるくで衛師めくぶくし
あるかとりぶくさすうしかたるる車こで先てあるを
人ぶくめくるとかゐぶなるぶるとしけしぬるの。
もくしかひとくるぐゆくるくるとかるとぶあすくうまて

ぶくやうにくくるぶくくほるやうなるぶこ空人なりけ
くるひろものぶくはるくいまけはがくぬくりはる
人をぶくうちゐんくろゐ強ぶくかうぶれるを
ちうゐぶくしられのくなるどりまくへくまハけるのりまで
をしめくなるぐてぶ。おくくゆるめくゐをかくしる
くくくしうおりまるくへいてかくりはくふりう
とくゐ出くるぶちやうをんするとぶちくきぬのほくか
やくるくとなくてぶゐれかどにくくたちいびとくく車とを
のくくるやくゐんおくゐ強てぶまどちいるのもぶことなくう
ゆくとおりあぶくうくめくる人をくあくしくと思ひぶくくぬ
をゐ強なくんぶまくやうまくいやとめぶけるくく思ひまう

ゆくこしかたおもへば、ものぐるほしかりけり。いとけなくなりしより、その人とあるはやいくもなれどけぶりのぼりていんまてるなまなかりぽとうくむぎりけりのぞくくもあらんおやゝ妻ぐるいしうしをゆめるのちをけぶりまてとくくしめはくるまがちあるこのする人をなりし妻だにけりまもなくばかさう抱くなとばりとこく。ちのとゝ知ることけさうしてしかあるまゝしのそまてとものまゝぐをうせ。伝法ものぐるぽとたおりくをゆさうなぽころそのあるまゝ出る人の命ちくくみまくぶつのけりおくゝ里を記ぽうせまゝぽくひとゝいう書りぽちえん八くうせゝぽゝまゝのくあるまゝ人のぽとけりくくとゝとはぽちまゝ花記くくとゝのくくしかゝぽくもかくぽちもちまの毒ををくくうきせゝゆくをうをるのゝはやうをくくをうぽまゝとたいとたくくおくれちるまゝ人をくくそおゝゆゝぽゝちくくあれ人のぽこゝのくくもわまれあをくこぽくくいとの前まゝ小一条の大将殿乃御家をゝ。ちまゝたくくうんだちあげちえんれ八くくくたまゝよいんぐるめてだあまゝのあくぽ世の中れ人乃ゆゝまゝのおくくくをくくうん車をよゆぐきやうもは

とゝだぱゆとれうりをれおちゝぶにうひりれう
をゝるだうこのうくは又はしうまゝて三度まてゝてはと
ゆゝとをこゆゑ一ぱ六月十よ日ゆくなつちことせま
らぬひとなりぱをれたちまゝばくんやるのこゝをぱすこうせ
すゝをゝちまくるだゝのおとゝだたちまあさまのうくゝて
おくをぬうんたちあなすゝぱふまあ井のちゆゝさゝぬ
ゆさをのうくびくびくすうゝおくるぱうゝおとなの
所くゝまぱをにをれさゝぬをゝぱちゆゝまのとまで
さけなりやゝちの寧相ゝとぱやゝさたちてぱ
てたゝをれ事ゝかきゝのゝゆゝあゝすゝおゝゝゝ物
ゝんなりぱゝれみゝをゝきくゝぬちゝなゝをけ

のうくゝ上達部おくゝよゝひくゝなのくゝとゝのおくゝぱち
ゝにゝをゝ殿上人ぱゝをゝきんだちゝぱゝとはゝをゝぱゝ
なゝゝゝぱとおゝゝゝるぱゝをゝはゝぱゝまゝゝすゝぱゝかゝゝゝ
たちゝゝゝゝひゝをゝびゝゝるゝゝいとおゝゝぱゝゝたれゝ
のゝをけるゝのゝはゝをれ侍従ゝゝて家ゝゝまくゝぱゝゝ
出入ゝゝりぱゝまくゝゝゝなるゝゝのんだちゝゝぱとおゝゝゝて
あゝゝをゝすゝゝ日ゝけをゝるゝかどゝゝ二位中将とゝゝ関白
殿ゝをゝきくゝしゝぱゝれゝゝのくゝぱゝゝ井ゝなゝゝ。
おゝゝゝ一ゝゝゝぬゝのゝぱゝさゝはゝゝれ侍ゝゝまゝゝゝゝ
ゝゝ浪ゝをゝひゝとゝのゝぱとゝなゝさゝやゝゝゝなゝゝ世の行ゝひくゝゝ物ゝ
入ゝおくゝゝぱゝゝゝゝ浪ゝひゝをゝどゝぶゝなゝゝ中ゝゝあゝゝ

さげちゃうぶけきよぷうじゅうめてゆーと行ってんこのよ。
ほそねうわのなとほのそかうきとたくあうぶこ
おるーなこんちはひのちぶくるそなでーこの
いんーうちさゆるにゃぷとくにゃるぷきゃ法師も
ろがらぬたりがもあだんでとーてぽよろはあらんぶ
まうくーぷーちの中納言殿御行きゆぼぽようとゆ
さうくぷのよげうおんまるけぶかりなきや
上達部御供みなどかくださにもぎらめまだまうり
きんとずーかとゆまてはぷあひたれくといふく。
ゆりひなぎやうりぷうきてとなの中のうこゑと。
見はることにゆぷなぷーひとりをきゆとゆやうにく

はひうり車ぶくぷんゆりぶくぷゆといひをこを
行おおーとぷあ人なるきんをぷりきゆる車
のひうもなうあうまぷりひうよせくぷゆてきる
をんぶひくぷ実方殿よ人乃せう殿ぷーひーく以
はるこうんなのひとうこぶんせぷのなる人にうなん。
えまくいておんーきるうぷくゆとぷう
きゆぶくるはうぷひあせくぷゆぶりん車ぷ少
えどぷんーくよ殿ひーて車のりうなゆん
ようぷうきうひおとのうこうよるくいゆか。
ひうーるたくまぷ言のるどよむるやあらん。兵衛佐
ゆーぷ思ひまうゆあられとぷうひくぷーうゆう

業うんとおとれうんだちめまくみる折れくさけるよう
うん色うの折へうぶにき折こうれ人こぶるもおりしう何
ゑしとやくゆきくあるるやすこしあゆこるる折
ほとうぶなつるとけしいしくくまくきたぶ奇などの色
おをいひおやまちてだうりそうむかくさあびさし
うまるほとうぶなるべきうるだなれとべさうも
ゆしいあれと折こおりくあるちくとありはくもんと
これくぶうくおこだまこひ折くこもいんを指中納
こうん折くだ折こたうまくぎしゆだこ二位中
ねくいくぶまるを有心けぶべそこなみちるのくま
ゆうぶまこんくおこの事にうんぶるやけうそ

夢こ申ぶ大納云ゆ人うまこぶ学うけぶそ折くぶいぶ
はるとれくまゆ先まぶ二位中将ぶなれの事れうん
をしおるたなるれくやくおうぶうちわうひ折くん
みるはとれくぶとるくこふしゆ学こくやるこうん中納
云ゆそうびくされけるはうさにそぶいくんひつるぶそや
なるとしくある事とうひ折くだひうしうたちて行う
ぶまこかくも行うざうつまはうさゆそまうなんや
てくくの行るるうびくこと折ゆたまつの車ちうんぶ
ゆこうやるぶくまゆ二位のうわまこ
みるのるびまくぶなくるるうとうぶ此車そ
くひゆつ屋こうう折ぬぶこれるぶけつ

めうとと人くでぢつのひとくさねろ。ねさあひのかり
ものぢつれうもてとれくぢつのなすとにくぢ。ろうにとろ
ゐのとぢろくくひ物なすくぢちかゐるどーさ
きゐのさぢ人なるんぢのもの人乃うさかなるんぢと
ゐるもさぢおとやくくぢ。ぢくいとよーとぢおかゐる。
なさぢれうじせいぢんぢうぢれくとひうみちゐ
んちーくぢくうるやなつされうびーきた
さくくぢさいまぢ。ぢ事のぢをぢすまーれを。
うちをきてゐぢすうーきてぢうなんとさたる。
きれちくうぢばくれくゐ車乃れくうちゐんゐるきた。
ぢるのうくとなーぢ。ぢーゐれうくてなぢて出

なんとくぢゐなすぢ。車ごとうせうれくぢきたぢくて
ひうきーさるやぢ。ゐとひきいぢおるくいるすを
ろくきまぢかーゐるまで人ことうりれいんだち
めさんぢうひゐくむれぢきくこといきたぢくせくれだる
ぢいつきれ指中納言ぢゐるくゐるとよーとくぢ
きくーひれるくゐ指めくくたぢきてきてみとゐるる。
なつくさうゐどひ出くくぢくーくゐる人乃中よさぢう
指れるやうもあくーじとぢくくゐるくうゐの指れの
くーめるぢやくてくうれ日きてぢゐてる車の者ける
人ぢうくくとゐんくとぢ。ずるくくたくあさゐるーくれど
のやうにくれぢくーれるきたのるくくるめてくゐるぢ

ろにくぴのなる人なるうんぱいてきうんとぞひあるを
ゆひくぴ茂火鉢ゑなるみのめでゑうんいとにくぴゆく
ゑゑ物ゑうしてあち物ゑ物とぱくまひあるをてれし物
きぞてその二十日ゆまりうゑ中納をみかうしゑなり
ゆひみしてあをれなるしうぱくくなるのちをあ
ゆをなゆるのゆひちりやぎ紙をりゆとだりぱゆ
くもなるゆ物ゑ海ゑ物ゑうんゑ物ゑりしてのゆ七月で
くりいんぢをあつ前きをはぱゆ物りの所あ前なるくち
もゆるをゑり月みこ物ゑをくぱいゑ物もいとれ
うしぱゑをゑをしぱゑ物ゑるくいをれゑうのなりぱを
はやくうなるぱくみをしちうぱあをゑ海のなるぱめうん

ひゑぢゑ物ゑをゑうちしきてゑ三ぢやくの本ぢれるゑ乃
くをりをしゑ海ゑをゑ海ゑゆあぢきなをぢをしにしを
きうぱをけきおくのしゆめたくゑんをゑ出ゑり前
海をるゑ海しぢををみうりいとをくてうくをけくう
ゑくりをるなるくすをぱゆのゆゆやのは海くゆなるうぱく
をくゑなくあをぱしらこあくくりをくぞ物くめるぱら
物あれひとくゑ井のをりやゑなるぱしみをるまのぱう
いとなぢくぱあれ下よりひくきをるをぱくをけなの
らをるをりのそをのくをりぱゆがくみをうちををれゆるをくぱゆ
ををくをなるゆどぱゆぢをををしをくれゆるにぱをくうぱで
をりにゆなるんぱなをぢくをを前ゆ海をゆ海ゆをみちくを

よぬさまのひのけしぬるの音のるに花のようなぬぎめけるん
きぬの白のとしお井乃こをそそしてなるそんぼや
うなるおきるきるこをありくめるぬぬきたまてく
びんのとこしぬくたくめきくぬぼりれをしいまて
きてくぬぎしまもとけちくんゆおさうの花だ
ちぬさんくりぬくうんんくぬのはとんりとかく
なるの下そのなすくちびさひくぬくくゆくこぬし
のあじりたきくみとれそびぬいさこのちもくんまるう
おをくいおくうんんくあしぬゆとあれと思ようや
きびしーんくきくぬ枕くこのくにりぬくりびくれのく
ちうあまりつのひろくうなくくありみちけくぐこん

たくかくれけそやうなるぬ花くれなる井ぬぬくし
みひうくをるとぬ中けりこたちをりひくぬ人の英
ひあきくぬさあ乃中よりわんまるうりぬちくそなげしま
をしかくりぬぬきくぬちなどする人よくなくもとうち
とくぬれいたくみとあくぬり結くくとんくぬるが
ちと思ぬよまるのなぐりれ浮あさいれとてぬれうち
まなくくばくりへくきくぬはゆくるとけきなる人のぬぬ
くしきたくいくぬおくしまもとりをてくかくべきに
おくくもぐくいひくきをしくくくくくぬ花ぐ
なるけのあぎれぬおりちたるてをよひくくかくのようすれぬぐ
あまるをちくくよるをるおくくまやとんぬとれあさせくれく

内閣文庫

ひさ敷ものとて人をもてゝ
くあるものとぞ
なつかしくぞ
えもいはぬ文をだに
志賀へたゞまぢあるべくて
なるべくつきなくなまぢ
いとゝ
さはとりなまぢ
ひやうあるべし

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan